

# よむよむNEO

## No.6

(R2.4.20(月))

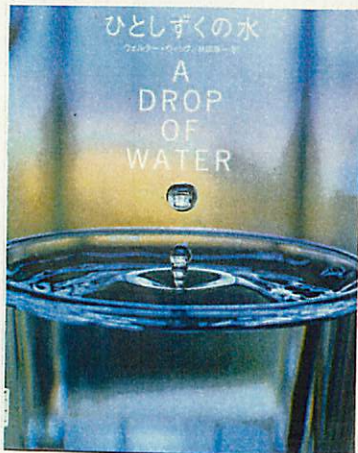
「<sup>ひかり</sup>光<sup>なん</sup>」って、何でできているのでしょうか？



「ひとしずくの<sup>ひかり</sup>光」  
ウォルター・ウィック 文/写真  
(小学館) NDC.425

「<sup>ひかり</sup>光<sup>なん</sup>」って、何でできているのでしょうか？  
光は固体でも液体でも気体でもありません。  
しかし、<sup>ひかり</sup>光が生まれるためには、  
固体、液体、気体のいずれの物質も  
やくにたっているのです... (本文より)

「ウォルター・ウィックさんといえば、  
大人気のさがし絵ほん「ミッケ！」シリーズや、  
トリックアートを写真で再現するというムチャな技をやった  
「視覚ミステリーえほん」の生みの親。(これがまた見事なんだな！)  
これは、そんなウォルターさんの写真科学絵本。  
「ひとしずくの光」につづく第2作目です。(こちらが第1作目) →  
今回のテーマは「<sup>ひかり</sup>光」。  
美しい写真で「光」をあらゆる角度から分析しています。  
これは、ウォルターさんの真骨頂といっても良いでしょう。  
ここまで、光を知り尽くした人だからこそ、写真家として  
「ミッケ！」や「視覚ミステリーえほん」のような  
名作を生み出すことができたのではないかと納得します。



## もしも なにかをなくしたら

「もしものせかい」  
ヨシタケシンスケ・作  
(赤ちゃんとママ社) えほん

もしも あれがうまくいってたら  
もしも あちらをえらんでいたら  
もしも あのひとがそばにいたら  
もしも ———

ある日、ねているぼくのまくらもとに  
ぼくがたいせつにしていたロボットがやってきてこういいます。  
「とつぜんでもういわけないんだけど、  
ボク、もしものせかいにいくことになりました」...

もしものせかいには、どうしてもできなかったことや、ずといっしょにいたかった人や、  
かわってほしくなかったもの、めのまえからきえてしまって「もしもあのとき...」って  
おもいだすものたちがすんでいる。

もうにどとあえないけれど、だいじょうぶ。  
ボクは、もしものせかいにずといっしょ。  
もうひとつのみらいとして、いつもキミといっしょにいる。

けしてきえてなくなったりしないから...

いつも斜めよく発想で  
読者をニヤリとさせたり、ときには  
ハッとさせてくれるヨシタケさんですが  
今作は、むねがぎゅとするようなお話。  
ヨシタケさんならではのやり方で  
喪失(さびしさ)と救済(すくい)の物語を描いてくれました。  
何かを失って、さびしさにじっと耐えている人に  
よりそってくれる、そんな一冊です。

